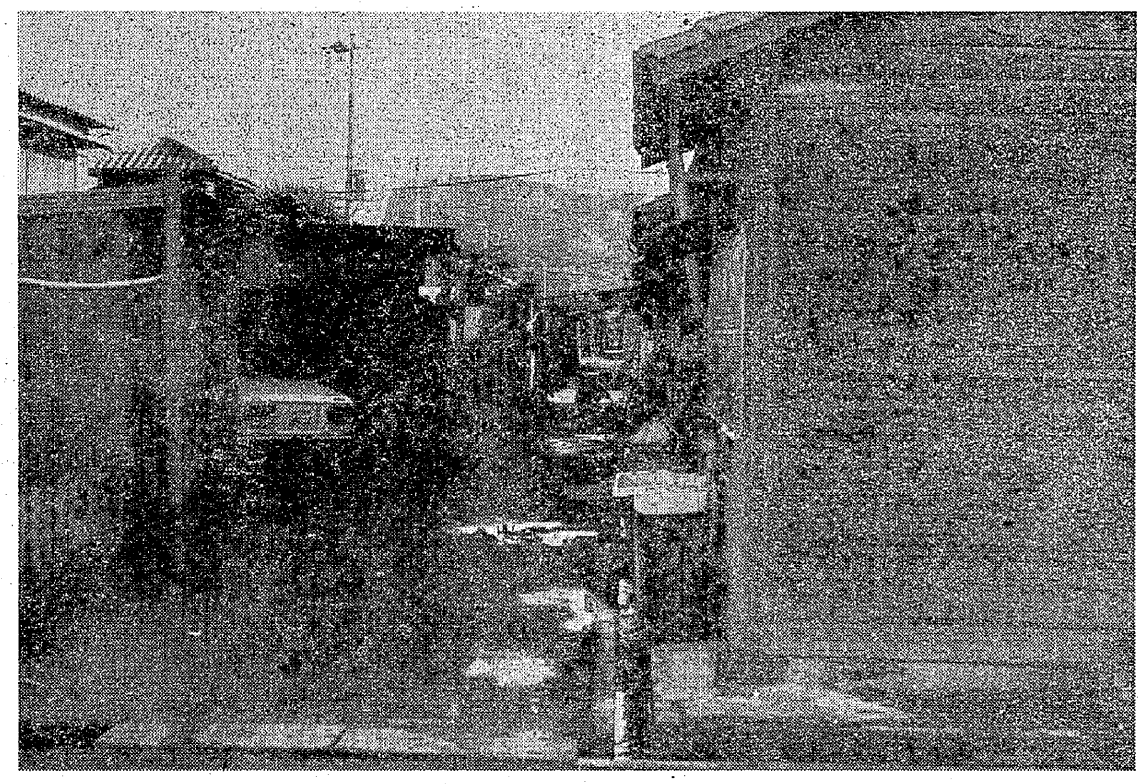

とある社宅の、朝のたたずまい。一人の主婦が家の外に七輪をもち出し、火をおこしているところが、生活を語つている。

三池主婦会、会社の災害責任追及

命より石炭が大事か

従業員は子だったはず

三池主婦会はこのほど三井三池鉱業所に代表がおとずれ、連続災害を呼び起こしている会社の保安軽視に激しく抗議するとともに、全社宅に対してビラを配り、三池炭鉱に働くすべての人とその家族が手をたずさえ、会社の災害責任を追及し、保安確立のために闘いましょう、と呼びかけました。

八日、島文枝会長をはじめとする十六人の三池主婦会代表が三井三池鉱業所に代表がおとずれ、連続災害を呼び起こしている会社の保安軽視に激しく抗議するとともに、全社宅に対してビラを配り、三池炭鉱に働くすべての人とその家族が手をたずさえ、会社の災害責任を追及し、保安確立のために闘いましょう、と呼びかけました。

この日三池主婦会は全社宅にビラを配り、そして「三池に働くすべての人とその家族は、坑内保安を確立し、会社の災害責任を追及するためにともに手を取って闘いましょう」、と呼びかけました。

この日会社が、玄関から代表をどといっている。その子がきたのになぜ会わないか」とつめ寄りました。押し問答の末玄関からはいることができ、右管理課長と会うことができたわけで、相変らずの会社の態度に怒りを抑さえることができなかったといいます。

この日会社は、会社は親、従業員は子なんの。

三井石炭の経営者の皆さん、あなたたちがどんなに否定されても労働者が命を奪われ、遺族がどんなになげき悲しもうと、金もうけのためには石炭のひとかけらの方が大事だとされている、何よりの証拠です。

主婦会は、職場の保安が確立されることを強く要求すると同時に三井石炭の責任を追及し、強く抗議するものです。

いれなかった事実に、その依然として改めない会社の態度がすっかりさらけ出されていた。

抗議文（要旨）

さる四月三十日楽しかるべき連休の朝四山鉱坑底で無人炭車が暴走し、人車に激突。三富工業の朝倉叶さん（52歳）が殺され、百四人に及ぶ重軽傷者を出す大惨事をひき起こしたことに、腹の底から怒りがこみあげてきました。

去る三十八年十一月九日、三川鉱で炭じん大爆発をひき起こし、その責任を問われているにもかかわらず、会社は依然として生産第一主義をとり続け、有明鉱合併による増産体制のなかでますます人殺し合理化をすすめているので

す。

三池労組は五月四日保安団交、引き続き五日二十四時間ストライキに突入して家族ぐるみの抗議行動を行なったにも拘らず、何の反

省のいろもなき会社は、その日また四山鉱で炭車の脱線事故をひき起こし、また昌和興業の境高雄さん（49歳）の命を奪ったことは、言語道断といわなければなりません。

娘

港務・臼井分会　平松清子

今年の春闘は、不況、インフレ、円高などのきびしい状況の中で闘われています。

炭労は特に、会社の誠意のない回答を不満として実力闘争を進めています。一方百十五円というお父さんの賃上げは、子供のこづかい銭ていどであり、私も労働者を人間あつかいにしない会社に強いいきどおりを感じているところです。

ある日の夜のことです。娘が「お母さん、私の初給料です。使ってくれんね」、といって二万円を差しだしました。そしてさらに、次のように私をはげましてくれました。

「お母さん、こんどのお父さんの給料はストで少なかつやろう。私が貯金にまわす分を使ってよかけん、心配せんでよかよ」。

娘の思いやりが嬉しくなり、よくここまで成長してくれた、との感激で胸がいっぱいになりました。

思い起こしますと、娘は三十四年七月二十三日、三池闘争のさなかに生まれ、三池闘争とともに育ったのでした。

お父さんの、差別による低賃金のため、生活は非常に苦しく、学用品も、遊び道具も満足に買いあたえることができませんでした。そんな苦しい生活のなかで、卑屈にもならず、このように思いやりのある娘に育ってくれたことが今さらながらうれしく、またたのもしく、改め

て過ぎていった十八年という歳月のもつ重みをしみじみかみしめているところです。

×

働く者の生活のなかから生まれた、思いもよらなかった感動。生活が平凡だからこそ、生まれる感動もひときわ大きいのです。それを、よく書いていただきました。どこの家庭でもよくあることながら、何という美しさでしょう。忘れるままに棄て去るには、余りにも惜しいエピソード。こんな感動をそのまま棄て去ることなく、この欄で書き続けたいものです。主婦会員の皆さん、思い切ってご投稿下さい。

編集部

医療110番へどうぞ

苦情集約、健康守る運動へ

私たちは現在の医療に、さまざまな不安をもっています。歯科差額や治療に対する不満。医療費の高いことや薬害のこと。差額ベッド。制度に対する不満などなど。

このような不安や不満な点を改善しようと、福岡県高齢者協議会と日本婦人会議福岡県本部が、福岡県民春闘共闘会議の後援のもとに、四月二十四～二十八日の間〝医療一一〇番〟（電話）を設置しました。母連協もそれに従い、市民一人ひとりが医療に対するうらみつらみをダイヤルするよう、呼びかけてきたところです。

その結果一日じゅう電話が鳴りっぱなしで、五日間に二百八十五件の苦情がもちだされました。一番多かったことは、「どうも診断が信用できない」との声でした。それに歯科に対する不満で、健康保険で認めない材料を使った、などの三十一件。病院が三人部屋なのに差額ベッド料をとられた、つき添い看護料をとられた、などの二十三件。

そのほか薬を間違えてもらったとか、タライまわしにあったとか大きな反響を呼び起こしました。

これからこれらの苦情を集約して、健康を守る運動を発展させ、国や自治体の医療施策に反映させるよう、取り組んでいくことが大切です。

使い捨てに泣く歌手

新人四百人、残るは五～六人

○…四、五月は歌謡界の新曲シーズン。十一、十二月の各種音楽祭めざして新人歌手がスタートを切ります。天地真理や小柳ルミ子がデビューした六、七年前（年間八百人）に比べて半減していますが、それでも毎年四百人位が巣立ちます。このうち一年たって何とか人に覚えられているのは二十人を割り、実績をあげた、といわれる歌手はわずか五、六人といいます。

○…この業界もご多分にもれず不況です。日本レコード協会調べによると、昨年一年間のレコード生産高は一億八千四百万枚、金額で千六百三十五億円になります。前年比では枚数八％減、とくにシングル盤は枚数で一四％減、金額で八％減と落ち込みました。ところが逆にカセットテープは二千五百六十一万巻（前年比二七％増）四百四十七億円（二四％増）と成長ぶりが目立ちます。

○…最近は大人の財布のひもが固く、ピンクレディなど子供向けの曲が売り上げをのばしているといいます。もっとも、大人にも子供にも人気のあるもの、例えば『演歌チャンチャカチャン』などが当たっているそうです。大人にはリバイバル調が、子供には軽く口ずさめるのが受けているとか。ところが一曲の売れるサイクルは約三カ月、半年ともちません。このため、新曲を次から次へ。「これでは歌手の使い捨て。じっくり歌いたいという歌手が多い」（浅木ラジオ関東アナウンサー）というのもうなづけます。【連合】

まんなかの人がベンさん。大橋代表らに伴われ、帰国のあいさつに来組した。

原爆症治療中の卞さん帰国

卞（ベン）さんの健康チェックと治療を実現させる実行委員会（大橋武彦代表）の招きで、かねて原爆症の治療を受けていた韓国人被爆者＝卞蓮玉さん（42歳。夫との間に一男二女）は、このほど入院先の長崎原爆病院を退院。しばらく平ノ山病院で過したあと八日、感謝の言葉を残しながら、福岡の板付飛行場から帰っていった。

住まいは韓国ソウル特別市江南区岩寺アパートで、二回目の治療だった。韓国には多くの原爆被爆者が苦しんでいるという。